



## 申1号

# 「お客さまと社員の信頼を回復し、安全で安心な JR東日本をつくりだす申し入れ」交渉実施

1.週刊文春に報じられた「JR東日本代表取締役 紹興酒30本で社員が救急搬送」に関する全ての事実経過を明らかにすること。また横浜支社に働く全ての社員に対して説明責任を果たすこと。

**会社回答** 2022年7月19日に本社から本部へ回答したと認識している。

### Point

- (組)社員に説明する必要がないという認識で良いのか。
- (会)支社が回答すべき項目ではない。お話しできる立場にない。
- (会)取締役は本社、横浜支社としてコメントできる立場にない。地方機関の議論になじまない。
- (組)管理者 Q & A はどのような意図で作ったのか。
- (会)一律に答えるように、本社の見解にコメントできる立場ではない。支社が何かすることができない。

良いか悪いかすらコメントできる立場にない。

今回の件が悪いことである認識が示されない!

- (組)職場ではこの話題で持ちきりである。本社が動かないから放置しても良いという考え方か。
- (会)良いか悪いかコメントする立場にない。持ちきりとの状況は把握していない。本社には伝える。
- (組)横浜運輸区ではプライベートが明らかにされた掲示を張り出されたことがある。
- (会)名前は出ていないのでプライベートが明らかになっているわけではない。注意喚起としての認識が強いのではないか。
- (組)取締役になるとプライベートを明らかにしない。現場と対応が違うということで不信感も出ている。
- (会)プライベートは基本的に制約されない。横浜運輸区の掲示に関しては、現場長は注意喚起したものである。業務に支障が及びかねない。社員の声は把握していないわけではない。プライベートの時間は「社会一般通念上に言われるところ」ということしか答えられない。

### 交渉を終えて

終始「支社では回答できない」の一点張りであった。今回あったことが「良いことなのか、悪いことなのか」すら回答せず、現場ではプライベートの行動で問題があれば掲示して周知する。経営者が週刊誌に抜かれれば、現場で働く私たちに一切説明されず、幕引きを図ろうとする姿勢はいかかなものなのか。大企業のやり方としては大きな危機感を持つところである。



2.勤務操配等の労働に関わる会社からの個人宅の固定電話又は、個人の携帯電話への連絡によって対応した時間を超勤扱いとすること。

会社回答 勤務については就業規則等に則り取り扱うこととなる。

### Point

(組)休日出勤の電話はどのような時間という認識か。

(会)基本的には自分の時間という風に考えている。就業規則53条に書いてあるが、過去の判例、労基法など様々なものを加味した上で判断している。会社の中の使用者が、労働者を指揮命令下においている場合は労働時間として定めていると思っている。強制はしていない。正常な業務を回すために協力していただきたい。

電話に出ることを強制していないことを確認！

(組)出面数での提示だが必要な要員は確保していると聞いている。コロナ禍をふまえて休日出勤を含んだうえで必要な要員を確保している認識なのか？

(会)休日出勤はかなりご協力いただいていることは感謝している。申し入れとは関係がないので、回答する中身ではない。

### 交渉を終えて

なぜこの項目が上がったのか。乗務を終えて帰っている時、家で休んでいる時、勤務時間中など所かまわず勤務に関わる電話が多くかかってくるからである。「また休出の電話だよ…」これが本線乗務員の本音である。現場管理者も苦労しているところであると思うが、休日出勤の多さから必要な要員は確保出来ていないと我々は考えています。休出の回数を含め、要員の検証を進めていきます。

3.新型コロナウイルス感染症第7波に伴い、万全な感染対策を継続すること。

会社回答 新型コロナウイルス感染症の対策等については、公共交通機関として国や関係行政機関と必要な対策を実施してきており今後も感染防止に向け取り組んでいく。

### Point

(組)コロナをどのように認識しているのか。

(会)感染しないように気を付けよう。国も変わってきている、それに対して柔軟に対応をしていく。支社だけということはない。社員の皆さんも決められたことをしっかり守っていただきたい。

(組)コロナウイルスの認識は全社的ということで良いか。

(会)全社というよりも国や自治体と鉄道事業者が集まる鉄道連絡会でガイドラインを定めている。

(組)他支社の現状を見ると横浜支社は継続して感染対策を行っている。他支社にも展開していただきたい。

(会)自分たちのエリアを超えた部分の話は申し上げづらい。

(組)共有する場はあるのか。 (会)もちろん。

# 私たちは声をあげ聞き続けます！